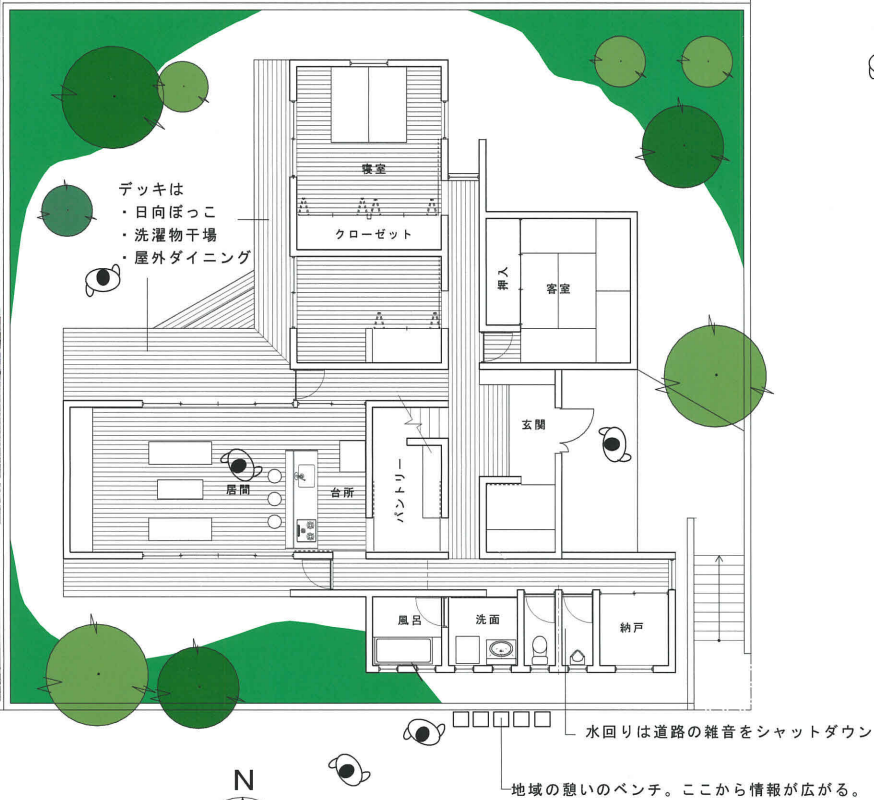


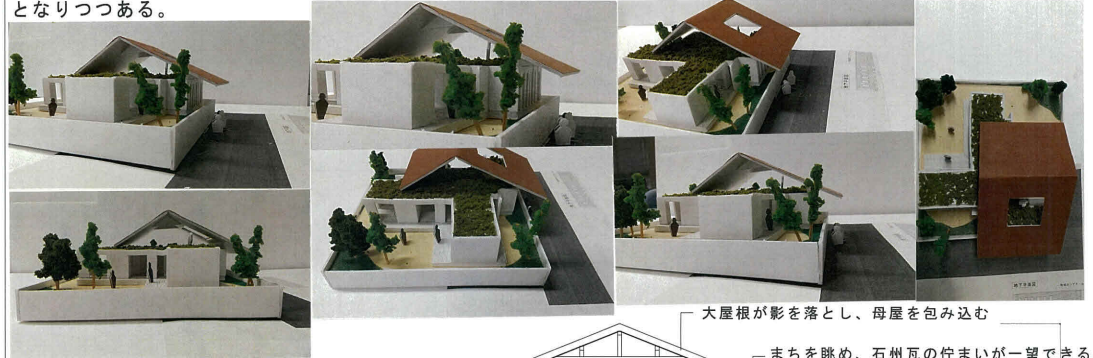
江津本町大屋根の家

—大屋根の下、地域住民のつぶやきが聞こえる通り—



2040年私は40歳になり家を建てることになった。住まいは江津市の江津本町に家をかまえることにした。往時の面影をたたくまいと、かつては、北前船の寄港地として栄え江戸時代に建築された商家の家屋も多く残り、残し歴史ある落ち着いた町にひかれ、この地を選んだ。あいかわらず夏は暑く、豪雨に見舞われることもあり、この家は暑さや豪雨に耐える家が、要求された。土地は1.5m地盤を上げ浸水対策をとった。屋根には大屋根を作り、日陰を作り出すようにし、そして土をのせ植物がはえるようにし断熱できるようにした。この方法で夏でも各部屋は涼しく、空調設備が少なくすみ地球環境に優しい家となった。2020年ごろ「SDGS」認定住宅となり3,7,11,13,12と5つの目標マークをうけ、税金も安くなった。

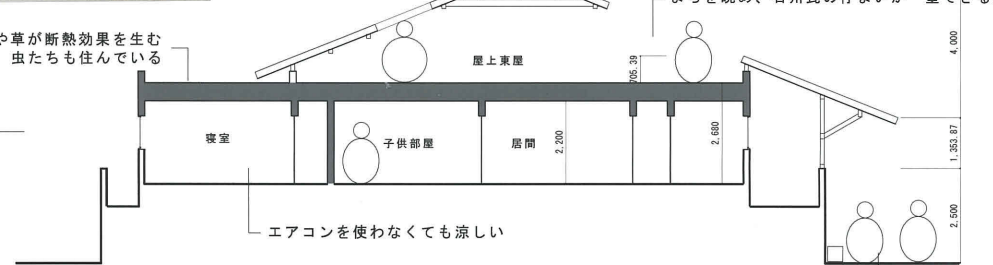
この家は地域の人々のちょっとした休憩スペースを通り沿いにつくった。大屋根が道路までつきだし、ひさしから通りすがりの人たちのたまり場となった。また祭りのときは出店の屋根となり、私の家の大屋根は地域のシンボル化となりつつある。



大屋根が影を落とし、母屋を包み込む

まちを眺め、石州瓦の佇まいが一望できる。

虫や草が断熱効果を生む
虫たちも住んでいる



通りすがりの人達の小休憩スペース



石州瓦でできた大屋根が目印

家族構成

- 私 40歳 水中写真家
- 妻 38歳 近くの和菓子屋さんに勤務
- 長男 10歳 バスケットボールが趣味

